

北海道（十勝総合振興局）のコーディネートにより、管内10市町村が連携し、管内唯一の認知症疾患

センターにチームを委託した事例 ～帯広市・浦幌町・音更町・芽室町・士幌町・上士幌町・清水町・池田町・中札内村・幕別町【北海道】～



市町村基本情報

(H.28.10.1現在)

	帯広市	浦幌町	音更町	芽室町	士幌町	上士幌町	清水町	池田町	中札内村	幕別町
人口	168,276	5,023	45,207	18,895	6,234	4,908	9,784	7,028	3,951	27,310
高齢化率（％）	27.0	38.8	26.6	27.4	30.2	34.6	34.3	40.6	28.3	30.0
市町村内サポート医	4	0	0	0	0	0	0	3	0	0
地域包括	委託4	直営1	直営1	直営1	直営1	直営1	直営1	直営1	直営1	直営1

チーム設置にあたっての課題と対応等

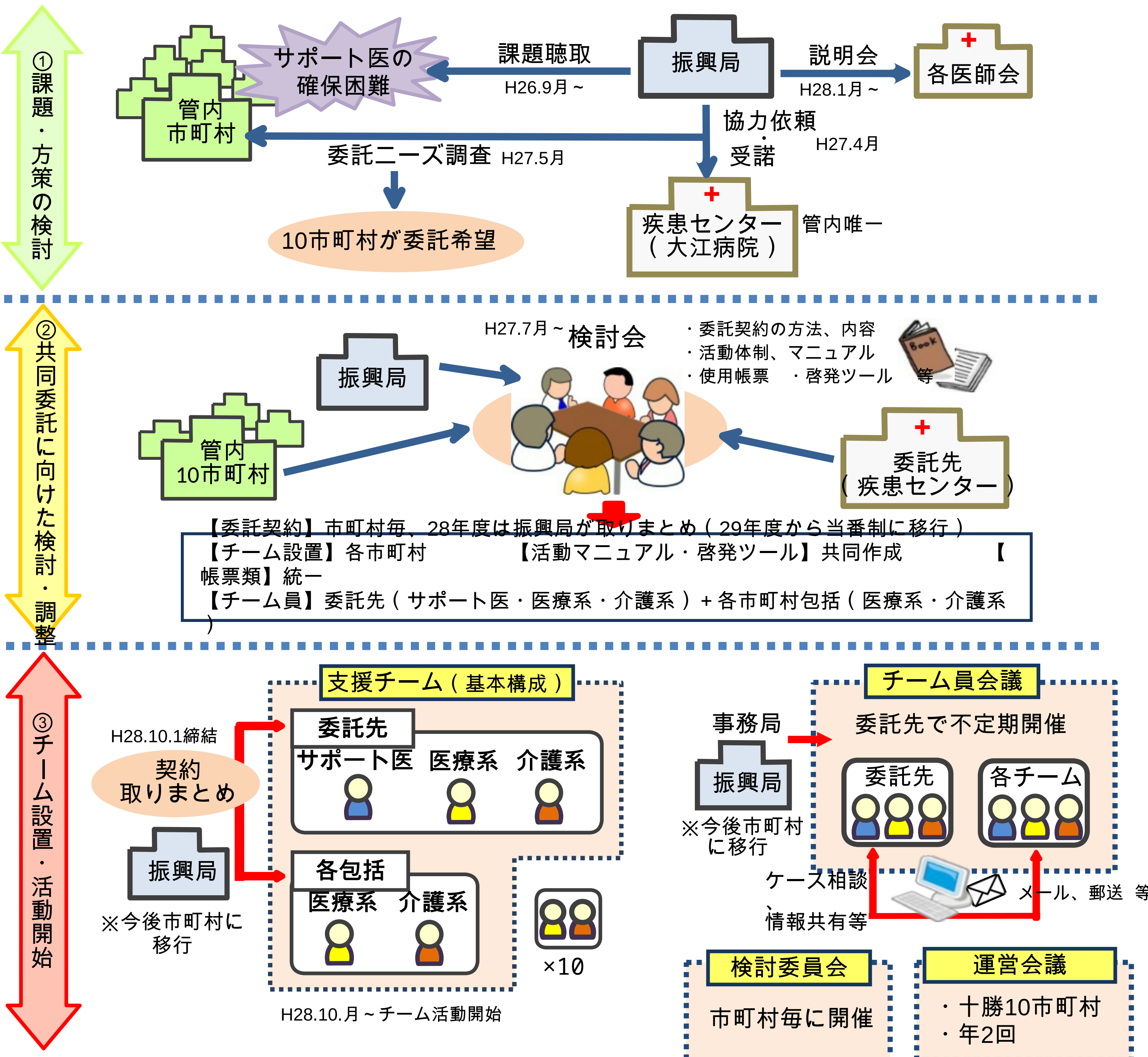
課 題	対 応 ・ 工 夫
○サポート医の確保 （H26年9月時点で管内に4名のみ） ○サポート医の早急な養成	○地理的条件も含め、唯一サポート医が稼働可能であり、認知症の往診も実施していた現委託先の認知症疾患医療センター（大江病院）に振興局から協力を依頼。 ○27年度新たに10名がサポート医研修を受講。
○各市町村との個別の委託契約に伴う委託先医療機関の負担 ○特定の市町村への事務負担	○委託契約の取りまとめ機関や方法を検討。28年度は振興局が取りまとめることで、医療機関の負担を削減（市は独自）。29年度以降は年度毎に当番自治体を決め、振興局は当番自治体をサポートする。 ○支援対象者の状態把握は委託先が往診等で使用している様式を活用することで、委託先の負担を軽減。
○活動内容及び使用帳票の共通化	○10市町村と委託先が合同で活動マニュアルを作成し、各市町村共にマニュアルに基づき活動する。（マニュアル検討：計11回） ○マニュアルの中で、使用帳票の様式も統一。
○委託内容の標準化	○共通の活動マニュアルに基づき活動することで、各市町村のチーム活動内容を均質化。 ○そのことにより、委託料の積算根拠の統一化に資する。
○活動地域の偏在の是正	○委託先スタッフのみでチーム員を構成すると、活動地域が周辺市町村に偏る可能性があること、チームによる支援終結後の地域支援への適切な移行・継続を考慮し、各市町村の地域包括職員もチーム員とし、日々の支援は包括職員が行うこととする。
チーム設置に向けて振興局が果たした役割・支援	

- チーム設置に向けた管内の課題把握、方策の検討、委託機関の確保等。
- 事業への理解・協力、人材育成を進めるため、関係機関等への説明や調整。
- コーディネーターとして、事業の立ち上げ・運営に必要な、市町村・委託先等との調整。
- 事業の理解・浸透を図るイニシアチブを取りつつ、今後は市町村による自立したチーム運営となるよう、後方支援にシフト。

チーム設置までのプロセスにおける効果

- 10市町村と委託先が合同で事業の仕組みを検討し構築していくプロセスを通じ、お互いの顔が見える関係が構築された。

十勝管内チーム立ち上げまでの流れと体制図



3 町合同でチームを設置し、島外の専門職の協力を得つつ、島内の人材育成・地域包括ケアシステムの推進を目指している事例 ～徳之島町・天城町・伊仙町【鹿児島県】～



市町村基本情報	徳之島町	天城町	伊仙町
人口	11,181	6,216	6,940
高齢化率	28.6%	32.6%	36.3%
圏域内の認知症疾患医療センター	0か所	0か所	0か所
市町村内のサポート医	2人	0人	0人
地域包括支援センター設置状況	直営1か所	直営1か所	直営1か所

徳之島地域チーム体制図

